



えひめハッピーライフ



アメリカから転入して来て 伸び伸びと子育てをしました

愛媛大学 法文学部 教授 土屋由香 先生

愛媛での子育て

息子が小学校2年生の時に愛媛大学に赴任し、以来、小学校・中学校・高校と子どもが成長する期間を松山で過ごしました。人口50万人の松山は「田舎」とは呼べない中規模都市ですが、その割には「子どもが子どもらしく伸び伸びと育つ」ことのできる要素が強く残っているように感じます。

例えば息子が小学生の頃は、近所の子どもたちと日暮れまで外で駆け回って遊んだり、裏のみかん山に入って「みかんエスカレーター」をすべり台にして遊び、農家のおじいさんに怒られたり…。「近所付き合いも、野菜をあげたりもらったり、子どもを家で遊ばせたり遊ばせても



らったり」と、比較のおおらかな感じで、外部から転入してきた者にとっては有難いことでした。

松山に来る前に私はアメリカの大学の博士課程に所属していたので、息子は2歳〜7歳までアメリカの保育園・公立幼稚園・小学校で過ごしました。転入してきた時には日本語が少しあやしい状態だったため、果たして日本の学校になじめるかどうか心配しましたが、上に述べたような全般的におおらかな雰囲気のお蔭で、問題なく適応することが出来たのです。

愛媛での学び

中学校・高校になるとさすがに「日暮れまで遊ぶ」というわけには行きませんが、松山では課外活動や部活動が盛んな学校が多く息子は勉強以外の活動を通して他人との協力・共働など、様々なことを学んだように思います。大都市圏では、受験指導に力を入れる学校では部活動が不活発であったり、大学進学のために有名私立中学・高校に通わせることが当たり前だったりすると聞きますが、愛媛県では公立中学・高校で部活動にも力を入れながら大学進学を目指すこと

が可能であり、息子もそういう道を選びました。サッカー部を続けながら受験勉強も一緒にがんばった仲間とは、成人した今も固い絆で結ばれているようです。

愛媛に住む魅力

食の安全や物価という点でも、松山はファミリー・フレンドリーな都市だと思います。地産地消の農産物や海産物が豊富に手に入りますし、「愛太陽(あいたいよう)ファミリーズマーケット」のような生産者の顔の見える農産物市には、愛媛大学の教員・学生が協力しています。食料品は一般に安く、栄養価の高い食事を低コストで作ることができます。教育・研究者として働きながら子どもの食事の世話をするのは、もちろん大変ですが、素材が良ければ、「野菜を炒めただけ」「魚を焼いただけ」でも、意外に美味しいものが出来るのだということを、私は松山に来て学びました。学んだと言えば、松山に来て学んだもう一つの話は、かんきつ類には、こんなにも多くの種類があるという事です。かんきつ類を全部まとめて「みかん」と呼ぶなど、愛媛県人にとつては許せないことも知れません。「いよかん」「はれひめ」「甘平」「紅マドンナ」「愛南ゴールド」…美味しいかんきつ類が一年を通して食べられることも、愛媛に住むことの魅力です。

また、子育て中は忙しくてなかなか行けませんでした。愛媛には本当に美しい自然や景勝地がたくさんあります。石鎚山系の山々、愛南町の海、滑床溪谷の

川辺、遍路寺など、心癒される場所が数限りなくあるのも愛媛に住むことのメリットです。

愛媛大学について

「これまで大学には直接関係のない」住まいやすさに焦点を当ててきましたので、最後に愛媛大学についても一言。愛媛大学はこれまで他の国立大学と比較しても女性教員の割合が低かったことから、2016年度に「学長裁量女性教員ホジティブ・アクション事業」を導入し、女性限定の採用人事を進めています。女性教員の数は徐々に増え始めており、これが一定の割合に達すれば、益々女性が入って来やすい雰囲気になることを期待しています。また大学には「女性未来育成センター」が置かれ、学内保育所の運営や、子育て中の研究者への支援、理系女子学生への就職支援、また愛媛県内や中四国の他大学と連携した啓発活動等を行っています。県外からも国外からも、益々多くの女性研究者が愛媛大学に関心を持ってくださることを祈念しております。

